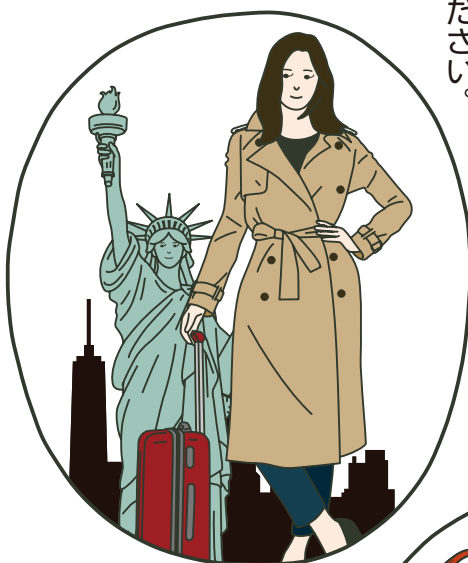




哲学する本棚

家を出て、新しい世界をめぐる帰ってくると
あたりまえだった日常がちよっと違って見えてくる。
「あたりまえ」のことを改めて考える哲学は、
どこか旅と似ている。
旅について考える本を五十冊選びました。
哲学館ホワイエに、
期間限定の読書空間が出現します。
本を手にとって、読んで、
考えてみてください。



たび
テーマ



【本の展示会】2019年

1月12日(土)―3月10日(日)

会場：哲学館B1Fホワイエ 入場無料

■展示書籍6つの分類

人はなぜ
旅をするのか

日常から
逃げ出そう

ちょっと
変わった旅

世界の広がり

やっぱり
我が家が一番

哲学者の旅

哲学カフェ

※哲学カフェは、集ったもの同士で身近なテーマについて語り、考えるイベントです。

① 2019年2月10日(日) 13:30～15:30

「ふるさとって何だろう」

進行役：辻明典 (てつがくカフェ@南相馬)
要申込/定員15名/参加費無料

② 2019年3月10日(日) 13:30～15:30

「人はなぜ旅をするのか」

進行役：山本和則 (カフェフィロ代表)
要申込/定員15名/参加費無料



コタツを設置した読書空間、ホワイエ。



石川県
西田幾多郎記念哲学館

Ishikawa NISHIDA KITARO Museum of Philosophy

〒929-1126 石川県かほく市内日角井1

TEL (076) 283-6600 FAX (076) 283-6320

URL <http://www.nishidatetsugakukan.org/>

E-mail nishida-museum@city.kahoku.lg.jp

■facebook はじめました。イベント関連情報も随時更新中です。



開館時間 ■ 9:00～21:00 (入館は20:30まで)

休館日 ■ 月曜日 (祝日の場合は翌平日)、年末年始 (12月29日～1月3日)

交通アクセス

【車利用】北陸自動車道 [金沢東IC] - 国道159号線 (約20分)
のと里山海道 [白尾IC] - (約5分)

【JR利用】金沢駅 - IRいしかわ鉄道線・七尾線 (約25分) - 宇野気駅 - 徒歩 (約20分) - 哲学館





「旅」 展示書籍のご紹介



1 人はなぜ旅をするのか

わざわざ住み慣れた町から出発して、
時間とお金をかけて、新しい土地についたのに、
すぐに自分の町へと戻っていく。
どうして、人は旅をするのだろうか。

『観光のまなざし』

ジョン・アーリ、ヨナス・ラースン／著
法政大学出版局

何かを見るために旅に出るのかもしれない。
あらゆるものが観光の対象となり、その見方はガイドブックなどが教えてくれる。ツーリストとそのまなざしについての古典的研究書。



2 日常から逃げ出そう

何かから逃げ出すために旅に出る人がいる。
ありきたりで、がんじがらめの日常。退屈。仕事。締め切り。
・・・本当に逃げられる？

『こんな町、つまんない！』

マーク・ローゼンタール／作・絵
徳間書店

退屈な日常から抜け出すために旅に出る人も
いるけれど、日常は本当に退屈？
「なーんにも、おこらないんだ、この町じゃ」
と退屈している男の子の背後で、つぎつぎ
ハプニングがおこって町じゅう大騒ぎになる
絵本。



3 ちょっと変わった旅

近くへの旅、遠くへの旅、タイムトラベル、夢の旅、
いろいろな旅。宇宙旅行は空想ではなくなったけれど、
人はどこまで行けるのか？

『猫町』

萩原朔太郎／著 金井田英津子／絵
長崎出版

「どこへ行ってみても、同じような人間ばかり」
だという旅に飽きた旅人が、不思議な
旅行法を発見した。人は住み慣れた町や、
よく見知った町でも異世界の旅を楽しむ。
詩人が書いた「散文詩風の小説」。



4 世界の広がり

旅に出ると新しい世界が広がる。見ない地図を見、
聞きえない地名を発音するだけでも、ワクワクする。
世界って何だろう？

『旅をする木』

星野道夫／著 文藝春秋

自分が東京に暮らしている同じ瞬間に、北
海道のどこかの山でヒグマが生きている。
当たり前だけれど不思議。それは十代の星
野道夫がはじめて感覚的に「世界」を意識
した経験だった。
アラスカを旅した写真家のエッセイ集。



5 やっぱり我が家が一番

旅がどれだけ素敵でも、やっぱり我が家が一番？
私の家、私のふるさとって何だろう？

『妻 和辻照への手紙』(上・下)

和辻哲郎／著 講談社

「私はやっぱり照のそばにいて子供たちの
顔を見ていなければ、落ち着いて勉強が
できない」。
西田幾多郎の同僚、和辻哲郎が留学中に
ホームシックにかかりながら書いた妻・照
への手紙。その留学の成果は有名な『風
土論』となる。



6 哲学者の旅

同じ町で暮らし続けたカント。
馬に乗って考えたモンテーニュ。
何度も引っ越しをしたけれど、
留学はできなかった幾多郎。

『カント先生の散歩』

池内紀／著 潮出版社

大哲学者カントは一生のほとんどをケーニ
ヒスベルクで過ごした。それなのに世界で
最も早い時期に大学で「地理学」の講義を
して大人気になった。そんな人間カントの
伝記を名エッセイストが書いた。



図書室の紹介

哲学館の1階の図書室には、哲学に初めて触れる方でも楽しく読める絵本や入門書から、本格的に勉強をした
い方のための本まで、さまざまな哲学の本が 9,000 冊以上並んでいます。なかには西田幾多郎が生きていた
時代の古い本もあります。どなたでも閲覧できますので、気軽に入室して探索してみてください (17:00 まで)。